

# 日本イベント企画(株)

大垣市・サービス業

従業員数 / 男性8名 女性16名 計24名 ※令和7年10月現在

**エクセレント  
POINT**

- ① イベントや運営する店舗に社員の家族、友人を招待
- ② フレックスタイム制&リモートワークで子育てとの両立しやすく
- ③ 興味あるテーマや趣味の業務担当にすることで公私が充実



自社が手掛けるイベントに家族や友人を招待することができるため、土日祝日は働きながら家族との時間も過ごすことができる。

地域活性化のイベント企画、県営公園内でのショップ運営、観光振興に関する事業などを行っている日本イベント企画。業務の特性上、土日祝日出勤の抑制を主眼に置くことは現実的ではないため、独自の視点で働きやすさの追求を続けている。

その一つが運営するイベントや店舗に社員の家族や友人に来てもらいやすくすること。有料催事の招待券を渡したり、運営店舗の割引証を発行し招待している。本社を含め、子連れ出勤も可能とし

## 家族との絆や趣味を、勤務中に深める

ており、2人の子どもを育てる鳥居将さんは「仕事しながら家族サービスができています。むしろ平均的な家庭よりもよっぽどいろいろな場所に家族を連れていき、多くの経験をさせてあげられているのでは」と充実した表情を見せる。また、業務の参考となるイベントへの参加を推奨しており、2025年は大阪・関西万博を自由研修の対象とした。研修には家族や友人の同行も可とし、費用は会社負担で実施した。

労働時間の抑制に向けては、21年秋にフレックスタイム制を導入したことで、担当業務に合わせた時間帯で働くことが可能に。リモートワークができる体制を整え、在宅勤務も可能にしたため、子どもの急病の際などでも自分のペースで働くことができる。

仕事の割り振りにも工夫を凝らし、社員それぞれが興味のあるテーマを担当できるよう調整している。サイクリングが趣味という原田尚之



サイクリングが趣味だという原田尚之さん(右)。仕事でもサイクリング企画を担当しており、仕事が趣味を振り下げる機会となっている。

さんは、7年ほど前から「ぎふサイクルプロジェクト」を担当。その道の第一人者と知り合えたり、最新情報を知れたりすることも多く「仕事面での充実感は上がり、自分の趣味としても深みが増した」と話す。

取締役の矢野純子さんは「業務特性を生かした働きやすさ、働き甲斐を高める手法はまだまだある。これからも企画会社として、ユニークな手法を社員と共に考えていきたい」としている。